

二〇二四年度 口語詩句奨学生によせて

西躰 かずよし

今回の応募者は四三名であり、例年にもまして多くの応募があった。それは、この口語詩句の取り組みが浸透してきたことと無縁ではないと思う。また同時に、作品の水準も上がってきている。今回の応募の方法であるが、口語詩句投稿サイトで佳作選定された二〇二三年の三月から二〇二四年の二月までの投稿作品から一〇作品を選んで応募するというものであった（ただし口語詩句賞との重複応募は認められていない）。

審査は、短歌、詩、俳句等、それらのそれぞれのジャンル（もしくは複数のジャンル）に出自を持つ作品を横断的に評価することとなるため、毎回、苦慮する。今回最も苦慮したのは、自選一〇作品においてきらりと光る作品がいくつかあるものの、それ以外の作品において何故それを応募対象として選んだのか分かりにくい書き手の評価についてであった。言い換えると、バランスよく選を行っている書き手と、そうでない書き手との差をどう考えるかということであつた。バランスが悪いと言つても、敢えてそれを行つているということは、革新的表現を摸索しているとも言える。言い換えると、俳句や、短歌の句形をベースに書く者と、詩、俳句、短歌といったジャンルの垣根を超えた表現を模索している者との違いだろう。それは、書き手のスタンスの違いであり、どちらが正しいというものでもないが、最終、誰を推すのかという点では悩ましい決断を迫られた。特に最後の三名から四名に、誰を推すのかというのが非常に悩ましかった。

もう一点、感じたことは、力のある新たな書き手がいつもより多く見られたということである。選ばれた奨学生は、学生という条件が付されるため、時間の経過とともに対象者が変わっていくのは、あたりまえはあるけれども、それでも応募者の増加を考えると、この作品投稿の場が、新たな書き手の発掘につながっていると感じる。インターネット上ではあるものの、互いの作品を鑑賞し、作品を投稿するという嗜みが、書き手の筆力の向上を促しているとも言えるだろう。また、短歌、詩や俳句といったジャンルにあっては、若い書き手が作品を世に問う機会は限られている。そういう点からも、この口語詩句投稿サイトの場は、貴重であると思う。

今回、奨学生として選ばれた皆さんは素直に喜んで欲しい。ただ惜しくも選ばれなかつた人についても、その結果に振り回される必要はないと思う（現に私が推した人で奨学生に選ばれていらない人も複数名いる）。これまで書くことに向かい合つてこられたことは決して無駄とは思わないし、君たちにとって必要なならば、これからも書き続けて欲しい。この奨学生の募集は、文芸における奨学生という稀有な奨学生の募集であるとともに、日本でも唯一の短歌、俳句、詩といったジャンルを超えた奨学生の募集である。君たちが書き続けることで、これまでにない時代を切り開くような新たな表現が生まれることを期待している。

最後に特に気になつた書き手について触れて、今回の総評のしめくくりとしたい。

清水 将也

日々の中で生まれる明暗をしみじみと描いている。作品からは穏やかな時間の流れが感じられる。

名作はあなたと観ずとも名作で
海はあなたが泣いたから海

僕たちの時価総額が落ちていく
優しい先輩ばかりの国で

奥村 俊哉

狂気を孕んだ表現と、作品全体を覆う沈黙には、なにものにも代えがたい魅力がある。

ピアノさぼった僕を
殴る母

ねぎのにおいがした

月光に開くピアノの翼

雨に冷えゆく拡声器

吉沢 美香

美しい立ち居振る舞いという言葉がよく似合う作品。静けさの中にことばが溶けていく。

雪が降る
楷書のよう

蝶の巣さりさりさりと砂時計

杉原 健吾

独特の世界観と作品にただよう不思議な明るさ。

浴槽のなかで栓を抜いたから
浴槽のなかで座礁を始めるわたし

ぼーんぶゆ

めつてめけいてめけもれば

うたは

あなたによまれて いるよ

佐久本倫歌

失うことの本質を見事にとらえている。

遺伝子の海辺

いなくなつたあと

寂しくないようしおりを投げる

天国じやみんな、名前を忘れてて
さいごのごはんの献立で呼ぶ

秒針の

かちとかちのくうげきで

からだがたまに浮きそうになる

小笠原風花

淡淡とした筆致で、日常のなかにある恐怖や喪失を描き切っている。

鈴虫を静かに潰すようにして
きみは美大をやめると言つた

父親が私をあなたと呼ぶ度に
桃をサラダに入れるなどした

ふかふかになつた林檎を砂糖煮に
したあと祖母は怖いと言つた

渡邊 美愛

ほんとうの自分でらうとすることから生まれることばたち。

ほんだなの奥

から

ばならの匂いの

月 をとりだす

じだんだを

すすきのよう受け流す

母の ほつきよくぐまのまなざし

ばんそうこう

剥がしきれずに夜光虫

など

をあなたと見て いたいだけ